

R P P Cメール

リサイクルポータル推進協議会

第537号(平成26年7月16日発行)

【今週号の主な内容】

■《今週の報道発表》 今週の報道発表はございません。

■《RPPC 事務局からのお知らせ》

1. 次回汚染土壌事業化PT開催日程について
2. 循環資源利用促進部会開催日程について

■《リサイクルポータルに関連する最新の情報》

1. 中国地整、浚渫土と製鋼スラグ混合材による海域試験
2. 能代港で石炭灰を処分する第2海面処分場を整備
3. 国土交通省港湾局長に大脇技術参事官が就任

=====

《事務局からのお知らせ》

1. 次回(第4回)汚染土壌事業化PTは、みなと総合研究財団3階会議室において
7/17(木)15:30~17:30の日程で開催いたします。
2. 平成26年度第1回循環資源利用促進部会は、みなと総合研究財団3階会議室において
7/17(木)11:00~12:00の日程で開催いたします。

【事務局】

-
1. 中国地整、浚渫土と製鋼スラグ混合材による海域試験

中国地方整備局は今年度、浚渫土と転炉系製鋼スラグの混合材による海域利用検討業務を実施する。そのままでは活用し辛い粘性土とリサイクル利用が求められている製鋼スラグを混合することで、土木資材として有効活用するのが狙い。同取組については過年度よりその成分調整などについて方向性が出ているが、中国地整では今後実施する試験成果を踏まえて、浚渫土と製鋼スラグの混合材を本格的に海域利用するにあたってのマニュアル化に向けた取組を行う見通し。

海域実験は製鉄メーカーにスラグを提供してもらい、浚渫土を混ぜて試験施工を行う。今年度はそのためのプランを策定し、来年度に海域実験を実施する。

浚渫土に製鋼スラグを混合すると固まり易い特質があるほか、軟らかい浚渫土が拡散しないなど環境にも優れることなどがこれまでに判っている。中国地整らは同混合材が低コストに土木資材として生産でき、施工性も優れることなどが確認できれば干潟造成や覆砂材、深堀跡の埋戻し材、護岸潜堤などに有効活用できるものと期待している。

【港湾空港タイムス】

2. 能代港で石炭灰を処分する第2海面処分場を整備

秋田県港湾課は能代港において、東北電力能代火力発電所から排出される灰を受け入れる第2海面処分場の整備を進めている。今年度から護岸本体となるケーソン据付工事等を開始しており、平成33年度からの受入を目標に事業を進める。

能代港においては、火力発電所から発生する石炭灰を処分する産業廃棄物海面処分場があるが、満杯になる前に同第2処分場の整備を進める。

第2処分場は現処分場に隣接して確保。埋立面積24ha、埋立容積171万立方m(うち石炭灰157万立方m)。護岸構造はケーソン構造で鉛直遮水は鋼矢板で対応する。また底面並びに護岸には2重シートを張る。

【港湾空港タイムス】

3.国土交通省港湾局長に大脇技術参事官が就任

国土交通省は7月8日付人事を発令した。港湾局関係では山縣港湾局長が退職し、港湾局長に大脇技術参事官が就任した。技術参事官には菊地計画課長、計画課長には宮崎技術企画課建設企画室長が就いた。また栗田中国地整局長、田邊近畿地整副局長が退職。関連人事で中国地整副局長に丸山四国地整次長、四国地整次長に守屋港湾局海・防課長、海・防課長には真田北開局港空部港湾計画課長が就いた。田邊近畿地整副局長の後任には池田航空局空港施設課長が就任した。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者:RPPC 広報部会

部会長:徳田 英司 新日鐵住金(株)

部会員:細貝 隆司 五洋建設(株)

堀江 良彰 東京都

加賀谷 聡一 (株)酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱(株)

新谷 聡 りんかい日産建設(株)

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団(内)

担当:本野、大矢、榎並 URL:www.rppc.jp E-mail:rppc_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物(セミナーなど)の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

#####